

博士後期課程院生オリエンテーション

博士後期課程は研究者養成を最大の目的としています。博士後期課程院生は研究者であることをまず十分に認識してください。研究者は、自らの研究を口頭発表や論文の形で公表し、それぞれの分野における知見の蓄積に貢献しなければなりません。そして、公表した研究は、他の研究者に読まれ・批判を受け・引用されることで、初めて研究としての価値を得ることを明確に認識してください。

学生便覧に記載の「博士後期課程研究指導プログラム」は3年間で博士論文を完成させるための指針を示しており、年次ごとの各段階において研究の進捗状況に関し厳密な点検が行われます。指導教員との連携を密にして優れた博士論文を書くよう努力してください。

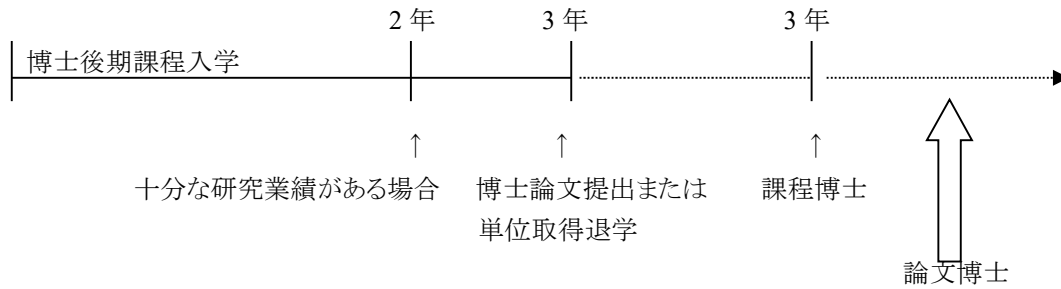
大学院生は教員からの指導を受ける権利を有しています（もちろん、院生自らが努力することが前提です）。

博士論文を書くために

- (1) 研究者である博士後期課程院生は、まず学会に所属し、学会活動を通じて研究者としての訓練を受けなければなりません。未加入の人は今すぐ加入の手続きを取ってください。
- (2) 博士論文は一つの自律したシステムです。システムを構築するためには、理論的枠組や方法論が明確でなければなりません。自らの研究がどのような理論的枠組や方法論に立脚するものであるのかをまず明確にしてください。そして同時に、研究を進めていくための具体的な研究の進め方を十分に認識する必要があります。
- (3) 博士論文は一気に書けるものではありません。研究会や学会における口頭発表、学会誌や専門誌に発表した論文などを積み上げていって初めて完成するものです。例えば、博士論文が5章からなるとすれば、5回程度の口頭発表や論文発表を行い、それぞれの内容を各章の主たる構成するのが普通のやり方です。
- (4) 全国学会大会での口頭発表や学会誌への論文発表は厳しい査読を受けることとなります。査読を経て受理されるには訓練と努力が必要です。最初からこれらに受理されるのは困難なことなので、より身近にある発表の場を確保することから始めるのが常道です。つまり、次のような順序を念頭に置いておくことが必要です。
 - ①研究会などでの口頭発表。
 - ②全国学会大会などでの口頭発表。
 - ③院生協議会の『Studium』や各講座などの紀要、本学の言語社会学会が刊行している『EX ORIENTE』、その他のあらゆる機会を捉えての論文発表。
 - ④全国学会誌への論文発表。
 - ⑤博士論文の執筆。
- (5) 博士論文は、教授会（博士後期課程を担当する教員の会議）における投票で、3分の2以上の合格の判定を得なければ学位が授与されません。またこの際に、学会での活動状況や口頭発表、あるいは論文発表があることが前提となります。博士号はそのような重みを持った学位であることを十分に認識してください。
- (6) しかし同時に、博士号の学位は研究者としての出発点に過ぎないこともまた、十二分に認識してください。本学で培った基礎訓練を武器に自立していかなければなりません。博士後期課程修了後も途切れることなく研究成果を公表し、自らの研究・主張を真摯に聞いてもらえるようになり、他研究者から論文を引用され研究者としての評価を得て初めて、一人前の研究者であると言えることを忘れてはなりません。

博士論文の執筆について

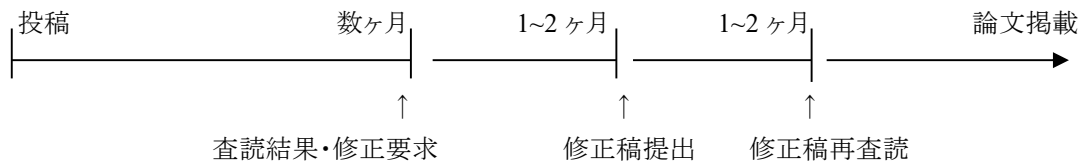
博士論文の提出



博士論文執筆の準備

- (1) 研究会や学会での口頭発表
- (2) 学会誌などへの論文発表
- (3) 博士論文執筆

学会誌への投稿



※学会誌に投稿した論文は、博士論文提出時に既に刊行されている必要がある。
(査読中や刊行時期が明確でないものは認められないので注意すること。)

博士論文の審査

- (1) 主指導教員・副指導教員(2名)を含む計5名の審査委員で審査。
- (2) 博士論文の内容、及び研究業績の精査。
- (3) 教授会において2/3以上の合格判定が必要。